

佐井村は、このほど、2050年までに村内の温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言した。小水力発電（発電出力が千キロワット以下の水力発電）の活用など、具体的な排出削減の方法を定めるロードマップの作成に着手する。

「ゼロカーボン」へ小水力発電 村が宣言

村役場で記者会見した福井県佐井村長は「8月の雨被害を目的に、気候変動対策の重要性は、思いやりのない。事業は村が主体で進める方針だ。小水力発電（発電出力が千キロワット以下の水力発電）の活用など、具体的な排出削減の方法を定めるロードマップの作成に着手する。



「ゼロカーボンシティ」を宣言した福井村長と竹内代表取締役

横浜断層を本格議論 東傾斜の扱い焦点

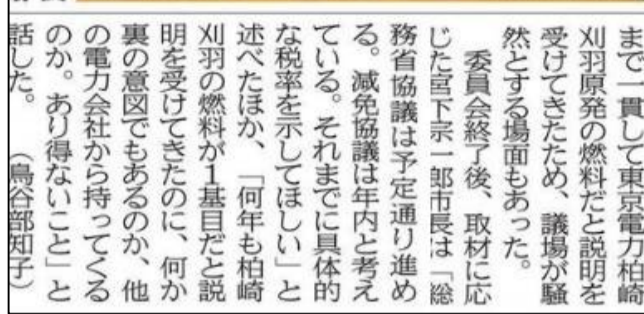
原子力規制委員会は17日、東北電力東通原発（東通）の審査会合を開き、耐震設計の目安となる地震の揺れ（基準地震動）を定める上で重要な「横浜断層」の本格的な議論に入った。

RFSへの核燃料税 むつ市、年明けにも 総務省と協議方針

むつ市は28日、使用済み核燃料の中間貯蔵事業を行う「リサイクル燃料貯蔵（RFS）」に対して独自の課税する核燃料税について、年明けにも総務省と協議する方針を示した。

核燃新税 むつ市が総務大臣協議表明 RFS「待つ」と言えぬ

むつ市議会は22日、使用済み核燃料中間貯蔵施設に関する調査検討特別委員会を開いた。リサイクル燃料貯蔵（RFS）の高橋泰成社長ら4取締役に参考として出席。使用済み核燃料に新たに課税する市使用済燃料税について、市が年明けにも総務大臣協議を持ち込むと表明していることに、高橋社長は「事業者は待つと、これ一と言えぬ立場はない」と述べた。



委員の質問に答える高橋社長（中央）とむつ市議会議員

揺れる 大間原発の行方 進まぬ工事 ■核燃サイクル見直し論

「他の原発は避難路がしっかりしている。Jパワーが避難路整備のプロジェクトを作り、政府と話し合う努力をしてほしい。」



Jパワーが建設中の大間原子力発電所＝大間町奥戸

河野氏発言 町議長が危機感

「我が町が道路を作るのは困難。県民の力を引き出すだけ、は国も動けない」と述べ、避難路整備のプロジェクトを作り、政府と話し合う努力をしてほしい。

「8月の大雨で災害時の迂回路として注目されたが、大間原発避難路の見直しが行われることも、工事の遅れはもとより、避難路の整備が遅れていると懸念されている。」

「エネルギー政策全般の議論を」

大間町での原発建設は、動きが出てから半世紀近い町が流れている。

横浜断層を本格議論 東傾斜の扱い焦点

原子力規制委員会は17日、東北電力東通原発（東通）の審査会合を開き、耐震設計の目安となる地震の揺れ（基準地震動）を定める上で重要な「横浜断層」の本格的な議論に入った。

「東通原発安全審査の再開に向けて準備を進めている」と述べた。東北電力青森支店長は「大規模な大雨被害により、一時停止した下北地域の復旧対応を東北電力ネットワーク青森支社の湯澤伸也支店長が説明。土砂崩れや倒木による電線の断線などにより、むつ市、風間浦村を中心に9日から3791戸が停電し、17日には全復旧した。」

「東通原発安全審査の再開に向けて準備を進めている」と述べた。東北電力青森支店長は「大規模な大雨被害により、一時停止した下北地域の復旧対応を東北電力ネットワーク青森支社の湯澤伸也支店長が説明。土砂崩れや倒木による電線の断線などにより、むつ市、風間浦村を中心に9日から3791戸が停電し、17日には全復旧した。」

東通原発安全審査 次回に向けて準備

東北電力青森支店の岩淵伸一支店長は8日の定例会記者懇談会で、東通原発1号機（東通村）の新規制基準適合に関する安全審査について、審査は7月9日以降に行われており、次回に向けたアラインメントを受け準備を進めていると説明した。

このほか、8月に新たな案が示された政府のエネルギー基本計画を踏まえ、岩淵支店長は「資源に乏しい日本において、一つだけ

